



札幌医科大学学術機関リポジトリ *ikor*

SAPPORO MEDICAL UNIVERSITY INFORMATION AND KNOWLEDGE REPOSITORY

Title	看護学科インターネット委員会活動報告
Author(s)	酒井, 英美;佐伯, 和子;門間, 正子;庄田, 順子;丸山, 知子
Citation	札幌医科大学保健医療学部紀要,第 1 号: 79-83
Issue Date	1997 年
DOI	10.15114/bshs.1.79
Doc URL	http://ir.cc.sapmed.ac.jp/dspace/handle/123456789/6604
Type	Journal Article
Additional Information	
File Information	n13449192179.pdf

- コンテンツの著作権は、執筆者、出版社等が有します。
- 利用については、著作権法に規定されている私的使用や引用等の範囲内で行ってください。
- 著作権法に規定されている私的使用や引用等の範囲を越える利用を行う場合には、著作権者の許諾を得てください。

看護学科インターネット委員会活動報告

酒井英美, 佐伯和子, 門間正子, 庄田順子, 丸山知子

札幌医科大学保健医療学部看護学科

要 旨

札幌医科大学保健医療学部看護学科では、委員会を設け組織的にインターネット普及活動に取り組んできた。

1996年度の委員会活動として、全研究室より学内LANへ接続できる環境を整え、学科教職員を対象にインターネットの基礎的知識及び操作の実際についての学習会を開催した。また、1995年に当学部が開設したメーリングリスト「JP-KANGO」の運営を行った。更に、看護学科のホームページを開設し、学生及び教員紹介のページを開設した。1996年12月現在では、教職員の約60%が電子メールやホームページを実際に使用し始めている。1996年度までの委員会の組織的活動の結果、学内LANへの学科としての接続環境が整備され、利用状況向上の成果がみられた。今後は、委員会主導の啓蒙普及を目的とした活動から、一歩進んで、参加者がインターネットの機能を積極的に活用するための方法について委員会として検討していきたい。

<索引用語> インターネット、看護教員、普及活動

はじめに

日本におけるインターネットは、1984年から大学や研究機関を中心に整備が進められてきた。1993年に商用サービスが開始されると、インターネットは一般にも急激に普及し始めた¹⁾。看護系大学においても徐々にLAN (Local Area Network) の整備が進められると共に、インターネットへの接続が行われ、その活用についても検討され始めている^{2~4)}。

多くの大学では一部教員の個人的努力により運営が行われている状況である。しかし、看護系大学のネットワークを構築し有効に活用するためには、教員全員のネットワークへの参加が必要と考える。コンピュータやネットワークを有効に活用するためには、看護系教員のみでは限界があり、コンピュータや情報処理の専門領域の教員との連携や組織的な活動が必要である。

本学看護学科では組織的な活動を続けており、本報告では、1996年度の活動内容、現在の看護学科の学内LAN及びインターネット利用状況について述べる。

インターネット普及に向けての取り組み

看護学科では、1993年の学部の開設当初から、教員有志によるインターネット普及活動が始まった。その活動は、1994年4月には学科内のインターネット委員会として発展し、それ以降多彩な活動を展開してきた⁵⁾。1996年度は、1995年度までの活動を引き継ぎ、学内LANの充実、啓蒙普及活動、メーリングリストの運営を行い、更に新たな活動として、学科のホームページを開設した。以下にその4点について述べる。

1) 学内LANへの接続

看護学科では、1995年度までに、HUB (集線機器) 4台、10base-T (ネットワークケーブル) 31配線を設置し、14台のパーソナルコンピュータ (以下、PCと略す) が学内LANに接続された⁶⁾。更に1996年度は教員研究室の増設に伴い、新たな配線工事を行った。1995年12月現在では、図1で示す通り、HUB 5台と10base-Tは34配線が設置され、合計で23台のPCが学内LANへ接続されている。

今年度の整備により、看護学科では全ての研究室から学内LANへの接続が可能となり、看護学科のPC

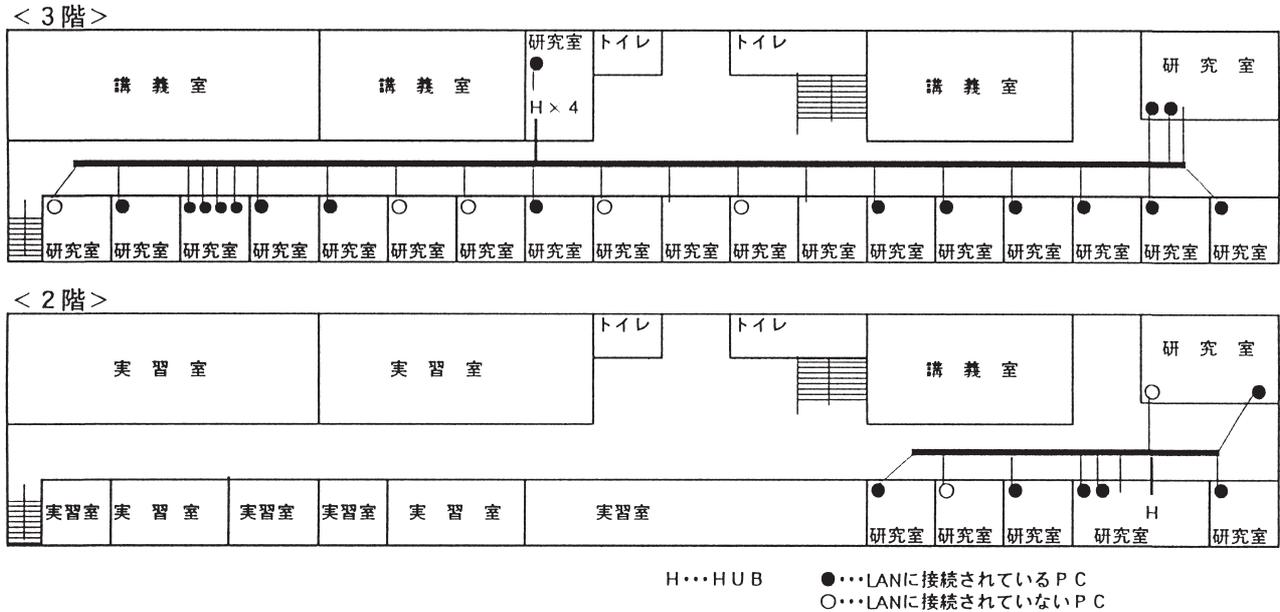


図1 看護学科における学内LANへの接続状況 (1996年12月現在)

の70.6%が学内LANへ接続された。

2) 学科内啓蒙普及活動

インターネットの啓蒙普及活動として、学習会の開催、広報及び利用者へのサポートを行った。

第1回目の学習会は、7月と8月の2度に分けて開催し、委員5名を除く延べ17名の教職員が参加した。内容は、時代の変化に対応し、Windows95及びMacintosh PCによるインターネット利用法とした。また、インターネットが十分利用されていない現状から、インターネットの基礎的用語の理解に関する内容も含めた。学習会では、委員が作成した資料を使用し、電子メール(以下、メールと略す)やホームページに関する基礎知識を30分程度説明した後、グループに分かれ約1時間にわたって実際に操作を行った。この結果、参加者からは、「曖昧な部分の再確認・明確化ができた」「実際に使い始めるようになりました」等の学習会に対して好意的な反応があった。一方で、「基本的なことは学習できたが、その後学習していないので・・・」と、学習会参加後も、メールを利用していないとの反応もあった。第2回目の学習会は、その内容をホームページの作成とし、3月に開催した。

広報活動としては、月に2回行われる学科内会議において毎回インターネットに関する情報、雑誌や文献の紹介等を行った。また、利用者へのサポートとして、各講座毎に担当者を決め、教員の疑問やPCのトラブル、新しいアプリケーションソフトに関しての相談に応じた。

あわせて、1996年度は学科内LANの活用を目的に、学科内での連絡をメールで行うことを目標とした。現在では、学科及び講座内の連絡で、部分的にメールが活用されるようになってきた。

3) メーリングリスト

本学部では、1995年4月に日本で初めての看護系メーリングリスト「JP-KANGO」を開設した^{7, 8)}。1996年2月の時点では、加入者数は19名であった。その後雑誌や学会での紹介を行い、1996年12月現在では、加入者は51名に増加した。本メーリングリストは、参加者が常に同等の立場で意見交換ができる開かれた場として運営されており、過半数が大学及び短期大学の教員であるが、その他、大学院生や臨床の看護職者等様々な立場の人が加入している。1996年度の主な話題は、個人の職業上の関心やコンピュータの使い方、O-157関連ホームページの紹介や、看護協会のホーム

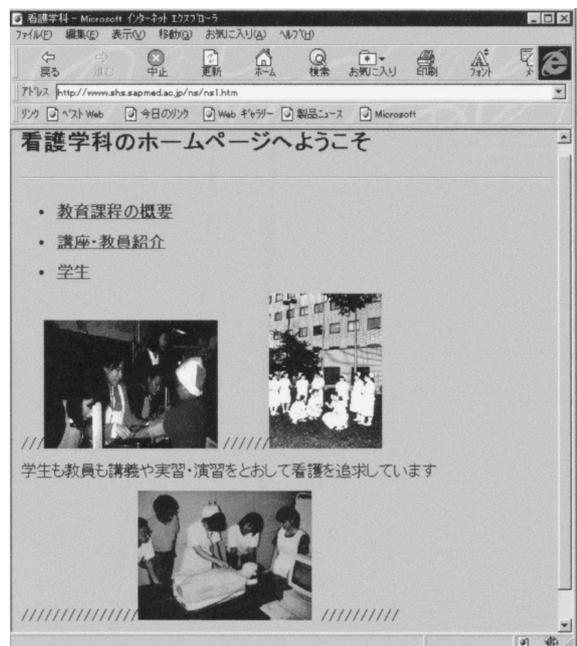


図2 札幌医科大学保健医療学部看護学科ホームページ

ページなどについてであった。

運営に関しては、加入者にメールの投稿を呼びかけたり、文字化けや、ネチケットに反していると思われるメールに対して助言を行った。

4) 看護学科ホームページの開設

1996年度保健医療学部看護学科のホームページを開設し、その内容は、図2に示す通り、教育課程の概要、講座・教員紹介、学生のコーナーで構成されている。教育課程の概要は、講座の紹介や年次カリキュラムの概要等大学案内の冊子で紹介している内容に加え、教育理念や履修科目等が含まれている。学生のコーナーは、学生によるホームページ作成委員会（仮称）を設け、そのメンバーによって運営されている。

大学のホームページは、公的機関の発する情報であるため、その信頼性を確保することが重要である。本学部では、教務委員会の下部組織として教育用コンピュータ運営委員会を設置し、教育用コンピュータシステムやホームページの管理・運営について検討し、運用している。同委員会で検討されたホームページに関する内容は、教務委員会を経て教授会に報告され、承認された上で公開している。したがって、看護学科においてもその手続きに従い、運用されている。

学内LAN及びインターネット利用状況

学内LAN及びインターネットの利用状況を把握するための調査を実施した。調査は、1996年11月に、教員25名、研究補助員4名の計29名に対し行った。今後学科内での連絡や事務手続き等にメールを活用することを目標にしているため、研究補助員も今回の調査の対象とした。調査は無記名自記式アンケート用紙を用いて行った。

調査内容は、ユーザとしての基礎的知識、メールの基礎的操作、インターネットによる情報検索、インターネットの利用法、今後の利用の可能性及び意識についての17項目とし、回答は2項又は多肢選択法とした。

アンケートの回収率は、23人/29人(79.3%)であった。その結果をまとめると以下の通りである。

1) ユーザとしての基礎的知識

ユーザとしての基礎的知識に関しては表1の通りである。ユーザ登録を「している」が82.6%であり、ユ

表1 ネットワークユーザとしての基礎知識

ユーザー登録	している	19(82.6)
	していない	4(17.4)
ユーザーネーム	知っている	17(73.9)
	知らない	6(26.1)
パスワード	知っている	19(82.6)
	知らない	4(17.4)
パスワードの変更	した	11(47.8)
	していない	12(52.2)

人(%)

ーザネームを「知っている」が73.9%であった。パスワードについては、「知っている」が82.6%であり、パスワードの変更を「した」が47.8%であった。コンピュータに関する基礎的知識を持っている人は多かったが、パスワードの変更は、UNIXでの操作となるため、変更したことのある人が知識を持っている人より少なかったと考える。

2) 電子メールの基礎的操作

メールの利用状況については、表2の通りである。「電子メールを開く」(新着メールの有無の確認)は、「毎日」が52.2%であり、「電子メールを書く」は、「毎日」が17.4%であった。メールの利用に関しては、「毎日書く」が「毎日開く」に比べ非常に少なかった。メールを書くという行為は、自ら情報を発信する能動的行為であり、また、書くためにはPCで文章を作成し、送信するという操作性も加わり、行為そのものが複雑になる。このため、「毎日開く」に比べ、「毎日書く」が少なくなったと考える。

次に、メールの利用に対する意識は表3の通りである。最も多かったのは「とても便利」で56.5%であり、「もっと活用したい」は13.0%であった。「必要ない」は0%であり、メールの必要性に関して積極的に否定する人はいなかったが、使い方に関しては、「面倒」「使い方が分からない」が合わせて、30.4%となった。

表2 電子メールの利用

電子メールを開く	毎日	12(52.2)
	週2~3回	1(4.3)
	月2~3回	1(4.3)
	開かない	9(39.1)
電子メールを書く	毎日	4(17.4)
	週2~3回	7(30.4)
	月2~3回	2(8.7)
	書かない	10(43.5)

人(%)

表3 電子メールの利用に対する意識(複数回答)

とても便利	13(56.5)
もっと活用したい	3(13.0)
面倒	1(4.3)
使い方が分からない	6(26.1)
必要ない	0
その他	1(4.3)

人(%)

3) インターネットによる情報検索

インターネットによる情報検索に関しては表4の通りである。ホームページの使用については、63.6%が「使用する」と答えている。Gopherについては、「しない」が86.4%であった。Gopherは1996年度の学習会の項目にはなく、また音声や画像も取り込んだ

表4 インターネットによる情報検索

ホームページの使用	毎日	2(9.1)
	週2~3回	4(18.2)
	月2~3回	8(36.4)
	しない	8(36.4)
	無効	1
Gopherの使用	毎日	0
	週2~3回	2(9.1)
	月2~3回	1(4.5)
	しない	19(86.4)
	無効	1
Medlineの使用	毎日	0
	週2~3回	3(13.6)
	月2~3回	8(36.4)
	しない	11(50.0)
	無効	1

人(%)

表5 現在のインターネット利用状況と意向

		現在行っている	今後行ってみたい	特に考えていない
電子メール	学生と連絡を取る	1(4.3)	9(39.1)	13(56.5)
	教員と連絡を取る	10(43.5)	4(17.4)	8(37.8)
	レポートを提出させる	0	5(21.7)	18(78.3)
	共同研究を行う	2(8.7)	12(52.2)	9(39.1)
ホームページ	医療看護情報を得る	6(26.1)	12(52.2)	5(21.7)
	自分のページを開く	0	10(43.5)	13(56.5)
	その他情報を見る	7(30.4)	11(47.8)	5(21.7)
	マルチメディア教材作成	0	14(60.9)	9(39.1)

人(%)

WWW (World Wide Web) の普及が著しい現状から、Gopherの使用の必要性も減少した結果「しない」が多くなったと考える。

4) インターネットの利用状況

インターネットの利用状況に関しては表5の通りである。教員間の連絡は、「現在行っている」が43.5%であった。共同研究については、「行ってみたい」が52.2%と多かったのに対して、「行っている」は8.7%と少なかった。教材作成も、「行ってみたい」が60.9%と多かったが、「行っている」は0%であった。インターネットを利用した教育や研究への希望や関心はあるが、まだ実際には行われていない現状であった。

今後の課題

インターネット委員会では、看護学科におけるインターネットの普及を目的に、LANの整備や学科全体に対して組織的に学習活動・広報活動、初心者への日常的な細かな対応を行った。これらの活動により、一部のコンピュータ利用者のみならず、多くの教員がインターネットを利用するようになった。

3年間の活動の結果、学科内のインターネット環境は整備され、看護系教員も基礎的知識を持って利用し始めている状況となった。現在までは啓蒙普及活動を中心に行ってきたが、今後はこれらを規範に各教職員が課題を持ち積極的に活用できるような方向へ向けて活動を発展させていく必要がある。すなわち、学科内の各委員会内での連絡、議事録の管理におけるLANの活用を検討すると共に、今までの普及を目的とした委員会主導の学習会を、教職員の主体的参加による学習会へと発展するよう検討していきたい。ホームページに関しては、学生及び教員のページのさらなる充実と、カリキュラム等提示内容の検討が必要である。今後、教育・研究機関同士のメールの交換や、ホームページの公開等にとどまらず、臨床や一般の人々への情報提供等活動範囲の拡大を目指してゆきたいと考える。

文 献

- 1) 山内一史：インターネットをやってみよう！さあやるぞ！、看護教育 37：316-319, 1996
- 2) 皆川美紀、佐伯和子、嘉屋優子ほか：看護における

- コンピュータネットワーク時代の到来 パソコン通信・インターネット活用の展望. 看護教育 35 : 1078-1082, 1994
- 3) 嘉屋優子、皆川美紀、佐伯和子ほか：看護におけるコンピュータネットワーク時代の到来 Gopherによる看護情報の公開. 看護教育 35 : 1088-1092, 1994
- 4) 皆川美紀、佐伯和子、嘉屋優子ほか：看護系大学がインターネット上で公開する教育関連情報について. 看護教育 37 : 1160-1163, 1996
- 5) 嘉屋優子、皆川美紀、佐伯和子ほか：札幌医科大学保健医療学部看護学科のインターネット普及活動. 看護 48 (5) : 65-70, 1996
- 6) 佐伯和子、嘉屋優子、皆川美紀ほか：看護におけるコンピュータネットワーク時代の到来電子メールによるインターネットでのコミュニケーション. 看護教育 35 : 1083-1087, 1994
- 7) 山内一史：インターネットをやってみよう！ 情報の輪を広げるメーリングリスト. 看護教育 37 : 676-679, 1996
- 8) 山内一史：インターネットをやってみよう！ インターネットで最新情報を集める. 看護教育 37 : 760-763, 1996

Activity Report on the Internet Committee in the Department of Nursing

Hidemi SAKAI, Kazuko SAEKI, Masako MOMMA,
Junko SHODA, Tomoko MARUYAMA

Department of Nursing, School of Health Sciences, Sapporo Medical University

Abstract

The Department of Nursing in Sapporo Medical University organized the Internet committee to popularize the use of the Internet in the Department. The committee is referred to as the Internet Committee in the Department of Nursing (ICDN).

This report presents some ICDN activities made in 1996. As the ICDN developed the environment for the computer network, the Internet became accessible to all laboratories in the Department. The ICDN also conducted several lectures on the basics of the Internet and supervised some exercises of the Internet to use it. The ICDN also managed JP-KANGO, the first and the only one mailing list in Japan through which the participants can discuss generally about nursing. A homepage of the Department of Nursing was established and it displayed some information about staff and students in the Department. The survey on the use of the Internet in the Department showed that about 60% of staff made use of E-mail and WWW services.

The next step for the ICDN will be the search for more effective applications of the Internet for nursing research and educational activities.

Key words : The Internet, Nursing faculty, Popularization activity